

# ま つ り が つ な ぐ 想 い



はやしどし 囃子山車への御盃入れ（ご祈祷）



西三自治会の皆さんによる山車の運行



原組囃子保存会に参加する子どもたち

新型コロナウイルスの影響で、中止を余儀なくされた様々な「まつり」。担い手の不足、継承者の問題などを抱えながらも、現在、市内では徐々に「まつり」が再開され始めています。今回は、そんな「まつり」に想いを寄せる皆さんから話を聞きました。

## “まつりびと”01

### 中丸コミュニティ委員会 加藤 芳雄さん

中丸コミュニティ委員会会長として地域のつながりづくりのため、コミュニティ単体のまつりやイベントを仕掛けています。

**つながりを失わないために  
中丸で「宵まつり」を開催**

中丸コミュニティ委員会の会長を務める加藤芳雄さんは、中丸生まれ、中丸育ち。つながり作りのため、地域のまつりを積極的に企画してきました。「子どもから大人まで輪になれる機会って、まつりくらいしかないんですよ。コロナでイベントができない時期は、中丸の皆さんも寂しがってましたね。そこで、昨年は中丸コミュニティ単体で『宵まつり』をやってみたくて」  
毎年11月に開催する北本まつり「宵まつり」。市内8圏域のコミュニティのねぶたが集う一大イベントですが、新型コロナウイルスの影響で開催できない時期が続きました。そんな中で昨年、中丸コミュニティは独自に「宵まつり」を開催。公民館の駐車場に、北本まつりで運行する中丸コミュニティのねぶたが登場し、地元の北中丸囃子連による演奏が行われ、おまつり気分を味わえる模擬店も出店しました。  
「市の中心から離れた地域なのでそこまで人は来ないだろうと思っ

## 地域に“ヨコ”のつながりを作るのが コミュニティ。まつりはその機会なんです。



が進んで太鼓を叩き、大盛況。今年の北本まつりでは、中丸コミュニティの太鼓にも注目です！

### うちの自慢！

## 上州風!? 桶太鼓

中丸コミュニティは、今年新たに2つの大きな桶太鼓を導入。大工の加藤清さん（下写真・右）が無償で台座を製作しました。今年の七夕まつりでお披露目したところ、子どもたちが

ていました。ところが、とにかく人がたくさん来てくれて。中丸外の人もいたんだと思いますが、北本ってこんなに子どもや若い夫婦がいるんだと驚きました」  
**人は減っても、できることはきつとある**

七夕祭りや運動会など、地元の外の人たちも自由に参加できる形でイベントを企画すると、SNSなどを通じて市外からも若い家族が参加したり、「市外に住んでいる孫を呼んでもいいか」と聞かれ

るようになりました。そうして遊びに来た人たちが「北本っていいな」と感じてくれるかもしれない。加藤さんはそう考えています。「今はどこも住む人が減っていて、地域の担い手が不足している。小さな地区だと難しいことも、コミュニティという括りなら、人が多い地区が少ない地区を補って、できることがあるんじゃないか」と思います」

